

1 学校教育目標
校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を实践する。

2 本年度の重点目標
<p>「啐啄同時～磨け心の珠(珠磨かざれば器を成さず、人学ばざれば道を知らず)」 (矢部高校と矢部高生をさらにキラリと輝く宝石へと地域とともに磨き上げる)</p> <p>個に応じた指導、探究的な学びの充実等により、確かな学力と高い専門性を習得する。地域との協働による取組をさらに発展させ、地域の担い手としての資質や能力を育み、将来の地域振興の核となる人間力を持つ人材を育成する。</p> <p>①生徒を磨く：確かな学力と専門性の習得、進路学習の深化、探究的な学びの充実、特別活動等の取組による人間力の向上</p> <p>②先生が磨く：授業改善と学習評価の工夫、ICTの有効活用、働き方改革の実践、個に応じた指導の充実による進路目標の実現</p> <p>③地域と磨く：地域との協働による取組のさらなる発展、情報発信による連携強化</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0以上を目指す。	全校集会、学年集会、育友会総会、学校HP等で説明及び情報発信する。	B	3.94と評価平均値は、昨年度と比較し、ほぼ変化がなかった。ただ、中学生保護者の評価が上昇している。本校の教育活動の発信が認知されて来ており、継続が必要である。
	職員の資質向上	学校改革による業務改善及び校内研修の充実と研修等へ積極的な奨励及び育成	校務分掌の活性化とリーダーの育成	各担当業務における具体的目標の設定とその進捗状況の把握	B	校務分掌ごとに主任主事が中心となって、掲げた目標を概ね達成させた。さらなる業務改善を進める。
	働き方改革の推進	業務の整理や効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現	時間外在校時間が月45時間を超える教職員を月平均8人以下とすることを目指す。職員のメンタルケア。	業務改善策の募集、実施と、職場環境の整備によって、職員間の報連相の時間を確保する。日々の声掛けと職員面談の実施	B	月45時間以上は月平均5.1人であった。業務改善に関する意見を調査し改善に取り組んでいる。また校務支援システム等を活用して業務の効率化を図った。年度末には環境整備を行い、業務効率化を図る。
	危機管理体制の強化	危機管理意識の向上と的確な対応	危機管理マニュアルの点検・見直し及び危機管理訓練の実施	実験・実習・体育・行事における想定及び事前指導の徹底	B	本年度より避難訓練を6月と11月に2回実施した。防災教育では全学年でマイタイムラインを作成した。
	学校管理下の事故未然防止の取組		実験・実習・体育・行事などでの事故「	定期的に劇物・薬物の保管管理状		学校薬剤師の指導助言に従い点検、管理ができてい

			0」を目指す。年度末学校評価アンケート（環境整備関係）で各評価者の平均値4.0を目指す。	況の点検、施設・設備の点検を実施する。	B	。実習における事故防止に努めたい。
学力向上	基礎学力の向上	学校全体での個に応じた指導の徹底	授業に臨む姿勢や理解度に応じた授業に関する生徒の項目で平均値4.0を目指す。	・授業の時間厳守や与えられた課題の提出の徹底 ・進路指導部と連携した学習支援ツール活用による個に応じた指導と課題の充実。	A	具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。目標の数値も達成することができた。学習支援ツールの活用を工夫しながら、積極的活用を図ってきたい。
	わかる授業の創造	生徒の実態にあった教科指導力の向上	新学習指導要領に対応した観点別評価とICTの活用を意識した公開授業を実施する。年度末学校評価アンケートで職員の授業研鑽に関する項目で平均値4.0を目指す。	・公開授業の実施 ・教育相談部と連携した授業のUD化推進 ・単元別シラバス作成 ・評価方法の検討 ・電子黒板や1人1台端末を効果的に活用した授業の実践	A	具体的方策にあげていることは概ね達成することができた。目標の数値も達成することができた。
	朝読書の充実	朝読書の推進	10分間黙読の徹底を図り、一人当たり年間冊数も増やす。	・全職員による読書指導の継続	B	黙読の徹底はできた。図書だよりをICTを活用して配付するなど工夫したが、図書館利用が少なく、年間の貸出冊数も5.9冊と昨年を大きく下回った。
キャリア教育（進路指導）	将来を見通したキャリア教育の充実	適確な自己分析と適正な進路選択	・キャリアパスポート活用とキャリアプランニング能力の育成 ・進学目標実現	・系統別進路学習 ・進路ガイダンス ・進路・成績検討会 ・進学目標実現への個別受験対策充実	B	進路検討会、進学個人指導、キャリアパスポートを適宜実施し、一定の成果があったが、一部の進路ガイダンスがコロナ感染症のため、実施できなかった。
	就職指導の充実と進路保障の実現	適正な自己理解と職業選択	就職内定100%達成 早期離職率低下	・担任とキャリアサポーターとの連携 ・事前職場見学推進 ・就職試験に対する個人指導の充実	A	就職希望者の内定率100%を達成できた。早期離職防止のため、就職内定者集会を実施しキャリアサポーターからも講演を行った。

生徒指導	基本的なマナーの徹底	進学・就職へ向けた意識の向上	面接試験に通用する整容・挨拶の励行を進め、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.2を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装・頭髪検査年6回実施。日常的に全職員で取り組む。</li> <li>・挨拶運動指導の実施。集会等での実践。</li> </ul>	A	校内での挨拶は定着している。しかし、立ち止まっただけの挨拶については全体に浸透していない。身だしなみについては登校指導をはじめ校内において注意喚起している。校則の見直しなどで生徒への周知を行い、共通理解を図るよう努めている。
	交通安全教育の充実	全人教育としての交通安全教育の充実	交通事故・違反0とともに、年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導、安全点検実施、交通安全教室、新規免許取得者講習、交通事故・違反者指導の実施。</li> </ul>	A	各学期の原付点検や講習会の実施、考査時の育友会合同の登校指導などで交通安全について啓発活動を行っている。また交通委員会が2重ロックや集会を実施するなどの活動を行った。違反者はいないが、複数名の交通事故は発生しているため、今後も講習会をはじめ交通安全の啓発に努めていく。
人権教育の推進	自他の命を大切に、差別を見抜き許さずなくす行動ができる生徒の育成	人権教育の内容の充実 命を大切にすることを育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業検討会議の実施</li> <li>・各学年年間5回分の教材を作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRの授業内容の精選と教材研究を進める。</li> <li>・研究授業による指導力向上に取り組む。</li> </ul>	A	LHRの実施前に、部会や学年会等で授業の内容や展開について生徒の実態をふまえて検討しながら進められた。
		職員研修の充実	年1回の講演会の実施と年5回の研修を実施	職員の共通理解と認識を高める。	A	予定していた研修については計画通り実施できた。
いじめの防止等	いじめの「未然防止」及び「早期発見」	全ての生徒が安全・安心に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が自己有用感を持つことができる授業、学校を目指す。</li> <li>・いじめは起きるものと認識し、早期発見、未然防止のための手立てを行う。</li> <li>・年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の充実を図る。</li> <li>・規律ある学校生活を送るため、授業の充実、生徒指導の充実を図る。</li> <li>・2者面談、アンケート等を定期的に実施する。</li> <li>・登校指導において</li> </ul>	A	各学年、各部、各科との情報共有を行い、生徒からの情報（相談等）に対し、迅速に対応することができた。 。専門家を交えた対策委員会だけでなく、事案発生の際に迅速に委員会を招集し対応の検討を行った。 年間を通して3件のいじめを認知し、県へ報告している。現在解消し、様子を見ながら観察指導中。

			指す。	生徒への積極的な声かけ、観察を行う。 ・各部会での情報共有。 ・専門家との定期的な防止対策会議の開催。 ・発見した場合は、迅速に校内組織の招集及び対応の検討を行い、迅速に対処する。		認知した3件以外でも人間関係のトラブルが発生しているが、学年及び教育相談部と連携し、問題の解消に取り組み、早期発見早期解決することができた。 未然防止のためのアンケートや二者面談を実施して、生徒の状況把握に努めた。 SCやSSWとの連携を図り、専門家の意見を取り入れながら生徒の悩みや問題の解決に取り組んでいる。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	郷土を愛し・誇りを持つ生徒の育成と総合型コミュニティ・スクールの充実	地域行事、ボランティアへの参加 全学科の「総合的な探究の時間」において地域課題に関する学習を実施 防災教育の充実	年度末学校評価アンケート(地域連携、防災関係)で各評価者の平均値4.0を目指す。	・八朔祭での造り物製作、ボランティア活動を実施。 ・協議会での意見交換を通して、魅力ある高校作りを推進。 ・地域の消防署と連携した防災訓練とAED職員研修を実施。	A	3年振りに実施された八朔祭りでは、引き回しに参加したり、「総合的な探究の時間」等を活用しての清和文楽人形浄瑠璃ワンピースにも出演して地域活性化や魅力発信につなげた。 11月の避難訓練では、地域の消防署と連携し、消防士と生徒で救護方法などの実演を行った。
特別支援教育(教育相談含む)の推進	特別な支援を必要とする生徒への柔軟な対応	個の発達に応じた指導の充実 職員研修の推進	職員全体の理解を深め、指導力を向上させる。年度末学校評価アンケートで各評価者の平均値4.0を目指す。	・生徒の指導計画を作成し、全職員で支援する。 ・生徒の理解と支援のための研修会や連絡会を年に3回実施する。	B	職員向けの研修は予定通り行うことができたが、全職員で支援に当たる体制づくりには至らなかった。 現在ガイドラインを作成中であり、全職員と共有することで一貫した支援を行えるようにする。

#### 4 学校関係者評価

- ・今の寮の問題だが、行政としても考えなければならないところがある。
- ・地域みらい留学をやって良かったと思った。
- ・R5年度の入試は、昨年度の数を超えており、地元からの受験者が近年では最大となった。
- ・「交通安全教育がよく行われている」の項目については、生徒の評価が昨年度より下がっている。一概には言えないが、安全教育などが維持ができないのはどうか。

- ・人権については、新しい制服、女子のスラックスなどを着用する生徒も出始めると思うので、偏見を持たない指導をしていただき来年は伸びるように期待している。
- ・寮の食事が気になる。町との話し合いは怎么样了のか。
- ・林業、食農科の矢部高校でないと受けられない内容が広報誌などでも載っている。食農科では有機農業を学べる時間はとれないものか。林業科では重機の免許もとれる。
- ・現在はげ山が増えており、その中で森づくりをやっている。4年目になる。自然林に戻す活動と一緒に参加してもらうのはどうか。2日間あり、東京からの参加もある。保護者になるような大人が参加している。その行事に参加してはどうか。交流することでもしかしたら入学につながるかもしれない。高校時代に植えた木を見に帰ってこようという気になる、森がどれだけ必要かの話もあるのでぜひ参加してもらいたい。
- ・毎年通潤橋の管理に参加してもらっている。広報に載せてもらいたい。
- ・実際の試験に合わせて、朝起きて学習することが、自分に合っているのか。課外はなくてもいいが、ちゃんと朝早く起きる習慣は必要。
- ・よく挨拶をしてくれる。
- ・本人に合わせた指導をしていただいて有り難いと保護者からの声を聞く。
- ・教育委員会でも寮のことが話題にあがる。問い合わせもある。町にも協力していただくようお願いしたい。
- ・矢部中から矢部高校への入学が増えた。どのような背景があるのかは、一概に言えないが、今年の3年生は行事がなかった。交流の機会が増えていたら希望者も増えるのでは。

## 5 総合評価

- ・中学生保護者で、評価が上がった。まだ数値自体は低いが、本校の魅力発信が少しずつ評価されている。
- ・授業意欲の項目では4.09の評価であり、過去の推移を見ても、R2:3.67→R3:4.04と年々上昇傾向にある。今年度は学校情報化優良校にも認定された。
- ・時間外在校時間が月45時間以上は月平均5.1人となり、目標を大きくクリアした。
- ・校内での挨拶は定着している。しかし、立ち止まっての挨拶については全体に浸透していない。
- ・就職希望者の内定率100%を達成できた。
- ・いじめ防止等について専門家を交えた対策委員会だけでなく、事案発生の際に迅速に委員会を招集し対応の検討を行った。
- ・3年振りに実施された八朔祭りでは、引き回しに参加したり、「総合的な探究の時間」等を活用しての清和文楽人形浄瑠璃ワンピースにも出演して地域活性化や魅力発信につなげた。

## 6 次年度への課題・改善方策

- ・きめ細かな指導・支援体制の特徴を生かしながら、Chromebook等のICT活用も加味しながら個別指導のさらなる充実を図っていく。
- ・立ち止まっての挨拶の定着を図る。
- ・スタディサプリを有効活用し、授業や理解度テストのフォロー配信などでの学びなおしの機会を更に設ける。また、公務員希望者の専用クラスを設置する。
- ・本校の特別支援教育のガイドラインに沿った全職員での一貫した支援体制の構築。
- ・本校の教育活動の情報発信に力を入れているが、まだしっかり伝わっていない部分（交通安全教育等）にも力を入れる。
- ・地域みらい留学を通して、さらなる本校の魅力を発信していく。